

歴史振り返り新たな一歩

新あいおい 商店街

(新相生商店街振興組合)



▲商店街の懐かしの写真集や過去を知る店主との座談会が収録されているほか、店舗紹介では店主の人物にスポットを当てた特徴的なつくりになっている。※ガイドブックは各店に設置



▲昨年10月に開催した「ふらの町なみ写真展」の様子。



▲告知ボードやプランターを設置し、商店街の統一感を生み出している。

駅前から西に延びる「新あいおい商店街（館和男理事長）」。「市民の生活空間であるとともに、へそ祭りのメイン会場として、長きにわたって、親しまれてきた商店街は、昨年設立40周年を迎えました。

記念事業としてさまざまな取り組みが行われており、昨年10月には、「ふらの町なみ写真展」懐かしの商店街」を開催し、商店街の歴史

史を振り返りました。また、今年1月には、商店街のガイドブックを発行。それには、過去を知る店主の方々の座談会や懐かしの写真集、「富良野高新聞」などが掲載されているほか、店舗紹介でも「人物」にスポットを当てた特徴的なつくりとなっています（約2万部作成。市内・近隣町に新聞折り込み）。このほか道

外先進地への視察研修や勉強会を開催し、理想の商店街像を模索してきました。

大道久専務理事は、「歴史を振り返った上で、新たな一歩を踏み出そうとこれらを企画しました。ガイドブックは、企画から編集まで自分たちが行ったので、私たちのこだわりを盛り込むことができました。周囲の反応も上々です」と手応えを感じている様子。

今回の一連の事業は、全国商店街振興組合連合会の「地域商店街活性化事業助成金」を活用したもので、側面的な支援を行った富良野商工会議所富良野中小企業相談所の年代哲也所長は、「今回の取り組みで、自信がつき、今後の弾みになったのではないだろうか。この商店街は、90年以上続く老舗商店が多く、底力のある商店街です。これからの取り組みに期待したい」と話します。

館理事長は、「『ここでお店を出したい』と思ってもらえるような商店街にしていきたい。次の仕掛けも考えているので、期待していただきたいと思います」と今後の動きに注目です。